

ダナンに行ってきました

6月、中学部の2年生と修学旅行でダナンとホイアンに行ってきました。

ダナンはベトナムの中部にある人口130万人の都市で、ホーチミンから北に780km、飛行機で約1時間のところにあります。長い砂浜のある美しい街は古くから貿易港として栄えました。

現在のダナンは、海沿いに大型リゾートホテルが林立し、日本のいくつかの空港から直行便が就航しているリゾート地でもあります。しかし、ここはベトナム

がフランス植民地となるきっかけになった「ダナンの戦い(1847年)」や、ベトナム戦争終盤に南ベトナム解放民族戦線がダナン駐留米軍に大規模な攻勢をかけた「テト攻勢(1963年)」など、歴史的な激戦地の一つでもあります。



さて、ホーチミン日本人学校修学旅行団は、新築されたホーチミン市タンソンニャット空港第3ターミナルを飛行機で出発、ダナン国際空港からバスに乗り換え1時間ほどのホイアン市に着きました。ここは、古くは東南アジア屈指の貿易港として栄えた街で、中国人街を中心とした古い建築はベトナム戦争を経ても残っており、ユネスコの世界文化遺産に登録されています。毎月



旧暦14日に行われる「ランタン祭り」が名物で、街は無数のカラフルなランタンで彩られています。

修学旅行団は、ここで「ランタン制作体験」「旧市街散策」などを行い、夕食後はランタンの灯る街を眺めながら、宿泊先であるヒルトン(!)・ダナンに向かいました。

ダナン大学日本語学科の学生との交流、ダナンにある日系企業への職場訪問、観光名所でもある五行山やドラゴンブリッジの見学に、当初予定にはなかったビーチでのひとときも加わり、学びと楽しみの多い2泊3日の修学旅行でした。

ベトナムと日本

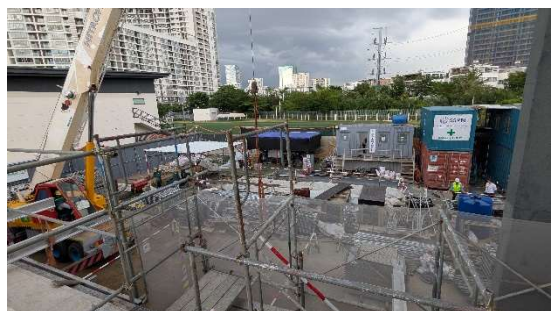
職場訪問では、学年が 3 つのグループに分かれ、日系企業の工場や拠点を訪問。私は、最先端のキャパシタやコイルの開発や生産はもちろん、倒れない自転車ロボット「■ラ■タ■サク君」など遊び心のある発明でも知られる■田製作所にお邪魔しました。



撮影厳禁の最新工場を、社員食堂や休憩所を含め見せていただいた後、企業理念やダナン工場の説明を受け、生徒からの質問にもていねいに答えていただきました。私が工場の方に、こっそり「なぜベトナム？なぜダナンなんですか？」と伺ったところ、次のように教えてくださいました。

「ダナンは昔から貿易港であり海運拠点として優れていることに加え、ハノイやホーチミンと比べて土地が確保しやすいという利点もあります。また、ベトナム全体に言えることとして、インフラが整っていること、親日国であること、何より優秀で誠実な労働者を動員しやすいことが、多くの日本企業がダナンだけでなくベトナムに進出してくる要因になっていると思います……。」

そういえば、現在本校の増築工事（現在の児童生徒 663 人が、さらに 250 人増えても対応可能になります）を担当している日本の企業の方が、現場で鉄骨を結束する作業の様子を見ながらこのようにお話ししてくれたことがありました。



「こうして作業の様子を見渡してみると、ここにいる 30 人ほどの作業員が、一人も手を緩めていないでしょう。私が見てきた世界の他の国では、どこかで誰かがのんびりしていたりサボっていたりしたものでした。日本でもです。これは、『今私たちが見ているから』と

いうことではなく、見ていなくてもそうなのですよ。朝早くから夜遅くまで、働いてくれる（昼休みは 2 時間あります）ベトナムの人には、とても感謝しています……。」

私がホーチミンにくることが決まったとき、以前の香港日本人学校の同僚で今は愛知や福井で外国人に日本語を教えている先生が、こう教えてくださいました。

「私の教室にもベトナム出身の人がいます。ベトナムの人は『かわいい人』が多いですよ。」

ベトナム生活 3 ヶ月が過ぎ、皆さんの言うことがずっと腑に落ちます。

本校で働くベトナム人の事務スタッフ、清掃や用務のスタッフはもちろん、街で出会うベトナムの人たちは、みんな生き生きとしていて、少しシャイで、誠実な人ばかりです（もちろん私も少しの緊張感には常に持ち続けますが）。街を一見すると、早口でまくし立てる（ように聞こえる）会話や結構多いタトゥー姿、スクーターや車がぐいぐい走る様子に圧倒されてしまいましたが、日本とベトナムの長く続くつきあいの深さが、「ベトナムの人の良さ」の証のように思います。

（私以外の方のコメントは私が聞いたお話を再構築したもので、文責は私にあります）